

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	05	たかつ区健康福祉まつり事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域ケア推進担当		田邊	64814	

事業の概要									
事業の概要		高齢社会を迎え、高齢者の健康維持や障害者の自立・社会参加を地域ぐるみで考える必要があることから、子ども、高齢者、心身に障害のある方が多くの区民と交流を深め、地域福祉を共に考える場とすることを目的とし、実行委員会に委託して福祉施設の自主製品の販売、健康相談等各種催し物を実施する。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費				
		平成27年度	—						
地域の課題と現状		少子・高齢社会を迎え、高齢者の健康維持や社会参加はますます大きな社会問題になっており、明るい福祉社会の構築は、障害者の自立などと併せて地域ぐるみで考えることが求められている。							
予決算 (単位:千円)		年度		H27年度		H28年度		H29年度	
				予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		1,093	1,000	1,090	1,054	1,087	990
		財源内訳	国庫支出金						
			市債						
その他特財									
一般財源	1,093	1,000	1,090	1,054	1,087	990			

計画 (Plan)	
事業の目的	子ども、高齢者、心身に障害のある方が多くの区民と交流を深め、地域福祉を共に考える場を提供する。
今年度の事業の取組内容	実行委員会にて企画、運営体制を協議し、7月8日てくのかわさきにおいてたかつ区健康福祉まつりを開催する。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	7月8日にたかつ区健康福祉まつりを開催し、参加団体の活動の紹介、福祉施設自主製品の販売、健康相談や体脂肪の測定、育児相談などの各種催し物を行い、1,500人が来場した。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1 成果指標	たかつ健康福祉まつりの開催(来場者数)	目標		1,800	1,100		人
			実績	1,800	1,100	1,500		
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
	4		目標					
実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 27 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	催し物の内容の検討により、報償費を削減しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	1,500人もの方が来場し、高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支えあいの地域づくりを推進することが出来た。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けるためには、市内で健康福祉に関する活動をしている市民で構成される実行委員会への委託が適当だと考えている。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	少子・高齢化の進展により、地域社会における市民の助け合いの重要性が高まっているため、引き続き実行委員会及び参加団体が構成される企画部会での検討を重ね、協働によって健康や福祉を共に考える場の提供・参加団体間の交流のさらなる充実を目指していく。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	25	10	10	高津区地域包括支援ネットワーク推進事業費			
担当			所属コード	所属名		担当者	連絡先		
			675000	地域ケア推進担当/地域支援担当		坂尾/杉田	64813/64836		

事業の概要							
事業の概要	高齢化の進展、高齢者や子育て世帯等の地域での孤立が問題とされる中、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、在宅医療の普及啓発のシンポジウムや、高齢者を見守る体制づくりのための講演会・交流会を開催する。また地域の見守り活動等の立上げ支援のため、集合住宅の状況調査、活動への助言者の派遣、他の地域での活動の紹介を行う。						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費			
	平成26年度	—					
地域の課題と現状	高齢化の進展、高齢者や子育て世帯等の地域での孤立が問題とされる中、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、在宅医療の普及啓発や見守り・支え合いの地域づくりが必要である。						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	653	464	1,127	695	1,879	1,473
	財源内訳						
	国庫支出金						
	市債						
	その他特財						
	一般財源	653	464	1,127	695	1,879	1,473

計画 (Plan)	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の普及啓発を行う 見守り・支え合いの地域づくりを進める
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①区民が在宅医療の理解を深めることができるよう、シンポジウムを開催する。 ②高齢者見守りネットワーク事業の協力団体、協力事業所を対象とした交流会と区民も含めた学習会を開催する。 ③地域の見守り活動等の立上げ支援のため、集合住宅の状況調査、他の地域での活動の紹介を行う。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	<ul style="list-style-type: none"> 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った 						
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> ・12月2日在宅医療シンポジウムを開催し、86名が参加した。 ・12月19日高津区高齢者見守りネットワーク事業交流会・学習会を開催し、83名が参加した。 ・500箇所の分譲マンションにアンケート調査を実施したほか、35箇所のマンションにヒアリングを実施し、実態把握を行った。そして12月16日マンションコミュニティ講演会・交流会を開催し、34名が参加した。これらの取組をまとめて報告書を作成し、区内すべての分譲マンションに郵送した。 							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H27年度	H28年度	H29年度	単位	
	1	成果指標	在宅医療シンポジウムの開催(参加者)	目標 100	100	70	86	人
	2	成果指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業交流会・学習会の実施(参加者)	目標 128	130	90	83	人
	3	活動指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業のリーフレット作成	目標 5,000	3,000	3,000	3,000	部
	4			目標 実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	2025年問題の対策として、地域包括ケアシステムの推進は重要な課題であり、地域力を高め、区民、地域の活動団体、行政等が、それぞれの役割の中で、お互いに力を合わせ、地域課題の解決に努める地域社会の醸成が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	分譲マンションのコミュニティの実態把握を行ったほか、講演会・交流会を開催してコミュニティの必要性について普及啓発を行い、それらをまとめて報告書を作成した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進が益々求められる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	在宅医療や見守り・支え合いの地域づくりの普及啓発を通じて、自助互助を促進することが出来た。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現在の事業執行体制が適当であると考えている。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	在宅医療や地域の見守りについては、理解が広まるように内容を工夫しながら、引き続きシンポジウムや学習会の開催、活動の紹介を行う。区内分譲マンションにおいて、住民間や地域との「つながりづくり」の取組を支援するとともに、講演会等を通じて好事例を区内へ発信することなどにより、地域における良好なコミュニティの形成を推進する。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	15	健やか地域推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域支援担当		高田	64831	

事業の概要								
事業の概要		有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟体操の要素が組み込まれている「高津公園体操」を地域に普及することで介護予防、見守り体制を推進する。						
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	すこやか・支え合いまちづくり事業費			
		平成19年度	—					
地域の課題と現状		超高齢社会の中で、市民が主体的に健康づくりや介護予防に取り組む体制を作っていく必要がある。また、地域における見守り体制の構築には多くの区民が関心を持っており、住民同士の関係が希薄化の中で、公園体操を軸に住民同士の連帯を進めていく必要がある。						
予決算 (単位:千円)		年度	H27年度		H28年度		H29年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	364	259	353	327	325	266
財源内訳		国庫支出金						
		市債						
		その他特財						27
		一般財源	364	259	353	327	325	239

計画 (Plan)	
事業の目的	介護予防に加え「閉じこもり予防」「見守り活動」も含めた各地域のコミュニティの活性化を目指す。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①普及啓発のための体験会・既に参加している区民へのフォローアップ研修を合同で開催(年1回)、ガイドマップの作製 ②公園体操立ち上げのための研修会の実施 ③グループリーダー交流会の実施(年1回) ④CD/カセット・DVDの委託販売 ⑤保健師によるグループ支援 ⑥グループ交流会の実施

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った				
		2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った				
		3. ほぼ目標どおり						
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> ①7/25普及啓発のための体験会・既に参加している区民へのフォローアップ研修を合同で開催、ガイドマップ3000部の作製 ②10/2公園体操立ち上げのための研修会の実施(居住者限定の施設内たちあげ) ③3/16グループリーダー交流会の実施 ④CD11枚、カセット7枚、DVD6枚を委託販売 ⑤継続危機にあるグループに対して相談にのるなど、区内全グループに対して継続に向けた支援を行った ⑥11/16グループ交流会の実施 							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1 活動指標	公園体操の活動数	目標	37	37	38	グループ	
			実績	35	37	36		
	2 活動指標	ガイドマップの作製	目標	3,000	3,000	3,000	部	
			実績	3,000	3,000	3,000		
3 活動指標	体験会・フォロー教室の実施	目標	1	1	1	回		
		実績	—	1	1			
4 活動指標	リーダー交流会の実施	目標	1	1	1	回		
		実績	—	1	1			

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	超高齢社会で介護予防や地域での見守りの対策が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直しした履歴も記載できる場合は記載		
	公園体操を通して多世代の住民が交流できるように進めていく。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	経済格差により運動する機会が失われることのないよう誰でも参加できる公園で実施している。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	健康づくりと地域コミュニティとしての促進が図られた。体操研修では35名の参加があり、体操継続の意義を再確認した。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	今年度同様の事業を実施していく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
		少子高齢化のなかで、多世代の住民が集い経済格差に関係なく健康づくりに取り組めることは必要であると考えられることから、事業の目的や方向性は維持するものの、見直し・改善のうえ継続することが適切であるとする。

平成29年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	25	高津区こころのバリアフリー推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675250		高齢・障害課		藤野	64648	

事業の概要

事業の概要		障害者及び障害者施設等と地域のコミュニティが交流・連携する機会を持ち、交流を通じて障害に関する理解が深まることを目的とした障害者施設の活動紹介や地域のイベントに障害者もスタッフとして参加すること等を通して、障害に対するこころのバリアフリーを促進する。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		すこやか・支え合いまちづくり事業費			
		平成28年度	—						
地域の課題と現状		障害者及び障害者施設等と地域住民の交流が深まり、障害に関する関心と理解が高まる事で区民活動の幅がより広がる他、災害時等の緊急対応が円滑に進むことが期待される。日常の地域交流支援には区内各種団体・町内会・社会福祉協議会・障害者支援関連機関と行政が継続的に協働する必要がある。							
予決算 (単位:千円)		年度		H27年度		H28年度		H29年度	
				予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費				718	264	514	239
財源内訳		国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源				718	264	514	239

計画 (Plan)

事業の目的	障害者や障害者施設と区民が相互交流を通じて理解を深め、地域コミュニティの交流・連携を図る。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 区役所1階を活用したふくシティかつの毎月1回以上の定期開催 障害者もスタッフとして区民祭や健康福祉祭り等への参加 一般市民向けに障害についての理解を深めることを目的としたシンポジウムの開催

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> ふくシティかつに延48施設が参加。 当事者が役割を持った地域活動に8名が参加。 1月13日に開催したシンポジウムに、昨年開催分の3倍に当る一般市民120名が参加。 						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
	1 活動指標	ふくシティかつの開催	目標	—	22	22	回
			実績	—	23	18	
	2 活動指標	障害者地域交流シンポジウムの開催	目標	—	1	1	回
実績			—	1	1		
3 活動指標	区民祭等への参加	目標	—	2	2	回	
		実績	—	4	2		
4		目標	—				
		実績	—				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	障害者に対しての社会の関心の高まりと、障害者自身の社会参加への関心の高まりにより、相互交流の機会の提供が求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	参加事業所を主体とした実行委員会方式に改めた上で、新たに企画運営会議を設け、よりきめ細かく、当事者の意見を事業に反映させる体制を構築した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	障害者の社会参加や施設の地域活動の必要性が高く、事業継続のニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	ふくシティかつの参加に際して、日常の作業の様子をそのまま持ち込むことで、より市民に理解し易い活動紹介を行ったり、特別支援校の分教室も新たに参加する等、成果が上がっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	シンポジウム開催では、市政だよりや区HP掲載だけでなく、区内公立小・中学校全てに案内を配布することで、効率の良い広報効果が得られた。ふくシティかつ等の広報についても、実行委員会で手法の見直しを検討する。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	
			障害に関する市民の関心の高まりと、障害者自身の社会参加への関心の高まりに対応するため、事業の目的や計画は維持し、手法については、新たな開催方法と広報手段などを見直し・改善のうえ継続する。